

日刊 勤労千葉

81.2.21

No. 665

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話 二九三五七六(公衆電話) 二七二二〇七

スト破り要員 助役機関士の線見訓練に積極的協力する

本部 反動分子と土屋一派を弾劾する

全組合員の皆さん。

全国の闘う全ての仲間、皆さん。

わが勤労千葉の助役機関士線見訓練阻止闘争は、成田・佐倉の両支部を先頭に全支部・全職場で19日以降一週間闘争として大勝利のうちに闘い抜かれています。

われわれの動員を数倍する県警機動隊、私服、公安、白腕章・局課員を配置した国鉄当局の助役機関士線見訓練強行に対し、われわれは、怒りにもえた全支部総決起をもって当局側を圧倒し、ほんろうし、線見訓練を実力で阻止し、意気高く連日闘い抜いている。

スト破り要員 助役機関士の線見訓練に全面協力する

「本部」土屋一派

このようなわが勤労千葉の総決起による助役機関士線見訓練阻止闘争に対し、「本部」反動分子と裏切り分子土屋一派は、ことあるうちに「公安官の助働体制・ガードマン・県警等で万全を期す」という「要求を受け入れられた」として「助役機関士の線見訓練を受け入れることを決定した」というスト破り宣言ともいえるべき提示を佐倉機関区にはり出し、わが勤労千葉の闘いに敵対することを明らかにしたのである。これが歴史的大裏切り、スト破りといわずしてなんというのか! われわれは怒りをもって弾劾すること、明らかにする。しかも、このハレンチな提示は、わが勤労千葉の闘いを怖れ、19日夜、こそこそと貼り出されたのである。

当日の19日早朝、助役機関士の線見訓練に協力するためにのみ佐倉機関区にあらわれた土屋・鈴木(正)などは、わが勤労千葉の組合員に激しく迫及されるや、「運転台のラッチをかけて助役機関士を入れない」などと全くやるつもりもない言いがれを言っていたのであった。

しかし、実際には、「本部」派の機関士は、わが勤労千葉の阻止闘争に敵対して、積極的に助役機関士を乗り込ませていたのであった。

しかも、わが勤労千葉の組合員からの正当な糾弾と迫及にいたたまれなくなり、当局に対し、「勤務者以外の者を詰所に入れるな」「本部」派組合員を警護しろ」と要求し、当局と権力の手厚い保護下に入って敵対と裏切りをくり返している。

動労全国大会や中央委員会で「特別決議」まで行なった彼らの「ジェット

燃料貨車輸送延長反対」なるものが実は、公安やガードマン・県警、国鉄当局への出動要請と警護の要求とそして「ジェット」を利用した何かがしかの「職場要求の獲得」であったことを自ら暴露したのである。

彼ら「本部」革マル分子と土屋一派は、なりふりかまわず、助役機関士線見訓練に全面協力し、それと引きかえに勤労千葉の正当な糾弾と迫及からのがれるために国鉄当局の「警護」を求めたのである。なんとハレンチなことか。(裏へつづく)

交渉速報

勤労千葉地本佐倉支部

基本要素について

- 1 警備・安全対策
①公安の助働体制・ガードマン・県警等で万全を期す。
②約2キロの防護フェンスの新設。
- 2 佐倉機関区の掘削
掘削現場の掘削地、掘削
都市手当の格差引上げ
運輸保安対策として
新採・定額拡大等に
- 3 職場
4 組合

助役機関士線見に対する 勤労千葉支部の見解

全組合員の皆さん!
支部は千葉地本指導のもとにジェット闘争に交渉を
つみ重ねてまいりました。
交渉内容は別掲示に示す通り一定の前進を目
にすることができました。従って千葉地本は助役機関士線見
(第一歩)に
対し受け入れることを決定しました。
佐倉支部は地本同様の考えで、組んで行きます。
全組合員の皆さん!
3月からのジェット延長問題の交渉は、これからの強い
闘争交渉を要して行きます。助役機関士線見を認め
るから延長も認めるといふことは別々。私運佐倉
支部はあくまでも交渉を基本として行きます。この原則
をしっかりと認識して下さい。
3月からの延長問題に対しては交渉の進展を机上で
議論集合を用いて全組合員の意思統一を図って
行くこととします。以上

2月19日 勤労千葉支部

公然たる「スト破り」を宣言!
国家権力・国鉄当局と一体となって、三里塚敵対・勤労千葉破壊の本心をさらけ出した「本部」派デッチ上げ地本(支部)の提示。(81年2月19日、佐倉にて)